

みんなの  
声に  
動く、働く

# ちかし REPORT

ちかしレポート  
VOL.09  
2020.3月発行

県議会議員  
「斉藤ちかし」が  
故郷の明日を  
考える。

「意志」ある所に  
「道」あり



## 活動目誌

2019年  
・  
2020年

### 2019 6月 県議会本会議

第298回定例会（6月13日開会・6月28日閉会）

### 2019 7月 文教公安委員会県内外調査

三八・上北地区・岩手県（7月24日～26日）

○県立三本木農業高等学校では、三農発「観光・スマート農業」推進プロジェクトについて説明を受け、意見交換をする。同時に、寄宿舎や農場関連施設を視察した。  
○八戸警察署では、警察活動の状況等の説明を受け、意見交換をする。同時に、署内を視察した。  
○八戸高等支援学校では、特別支援学校の運営について説明を受け、意見交換をする。同時に、校舎内を視察した。  
○岩手県庁では、世界遺産 平泉の保存・活用等について説明を受け、意見交換を行い、構成資産の一つである中尊寺の視察を行った。

### 2019 8月 文教公安委員会県内調査

中南・西北地区（8月27日・28日）

○つがる警察署では、警察活動の状況等について説明を受けた後、平成三十一年三月に運用を開始した新庁舎を視察した。  
○県立弘前第一養護学校高等部では、職業教育・キャリア教育の推進について説明を受け、意見交換をする。同時に、廃校となった旧県立岩木高等学校跡に移転された新校舎を視察した。  
○県立弘前南高等学校では、スーパーサイエンスハイスクールの取組について説明を受け、意見交換をする。同時に、校舎内を視察した。  
○ヤマニ仙遊館（大鰐町）では、文化財の保存・活用等について説明を受け、意見交換をする。同時に、館内を視察した。

### 2019 9月 県議会本会議

第299回定例会（9月18日開会・10月16日閉会）

1. 東京オリンピック・パラリンピックの開催効果獲得について（本紙紹介）  
2. 「青天の霹靂」の販売対策について（本紙紹介）  
3. 青森りんごのタイへの輸出対策について（本紙紹介）



### 2019 10月 文教公安委員会県外調査

兵庫県・大阪府・京都府（10月29日～31日）

4. 安全・安心で持続可能な水道に向けた県ビジョンの策定について（本紙紹介）  
5. 第八十回国民スポーツ大会に向けた競技力向上について  
6. 会計年度任用職員制度の導入について  
(1) 会計年度任用職員制度の導入について  
(2) 臨時講師の任用について

### 2019 10月 文教公安委員会県外調査

兵庫県・大阪府・京都府（10月29日～31日）

○兵庫県立阪神昆陽高等学校・阪神昆陽特別支援学校では、インクルーシブ教育の推進について説明を受け、意見交換をする。同時に、校舎内を視察した。  
○兵庫警察本部では、サイバー犯罪に対する防犯啓発活動の展開について説明を受け、兵庫警察が実施しているサイバー犯罪被害防止教室を体験した。  
○姫路城では、文化財の保存・活用の取組について説明を受け、意見交換をする。同時に、姫路城を視察した。  
○大阪府警察本部では、高齢運転者対策について説明を受け、意見交換をする。同時に、通信指令室及び交通管制センターを視察した。  
○京都市立堀川高等学校では、探究科の取組について説明を受け、意見交換をする。同時に、探究の授業の様子など校舎内を視察した。



### 2019 11月 県議会本会議・青森県議会 第三百回定例会記念式典

第300回定例会（11月22日開会・12月9日閉会）



### < 斉藤ちかし・略歴 >

- 昭和45(1970)年生まれ
- 平成元年弘前高等学校卒業
- 旧岩木町議会議員1期
- 弘前市議会議員1期
- 青森県議会議員3期 (文教公安委員会副委員長)
- 岩木山観光協会会長
- 岩木山商工会理事
- 岩木ソフトボール協会会長
- 津軽中学校同窓会会長
- 青森県ノルディック・ウォーク連盟会長
- NPO法人 津軽弁協会理事

次世代を担う子供たちが  
故郷に誇りと愛情を持って  
暮らせる街にしたい



### 2019 12月 文教公安委員会要望活動

東京都「文部科学省」（12月12日）

○文教公安委員会は、県教育委員会と合同で、文部科学省及び県選出国会議員に対し、「新たな公立義務教育諸学校教職員定数改善計画の策定」及び「学校施設整備に必要な財源の確保」について要望活動を実施した。文部科学省では佐々木さやか大臣政務官に対し要望内容を説明した後、意見交換を行った。  
佐々木大臣政務官からは、教職員定数の増員や、必要な施設整備予算の確保に引き続き取り組んでいきたいとの発言があった。  
また、津島淳衆議院議員ほか県選出国会議員に対し要望書を手渡し、支援を要請した。

### 2020 1月 北海道・東北6県議会議員 研究交流大会

福島県（1月24日）

○各同県議会議員の交流を図り、北海道・東北六県が一層連携を深め、地域に共通する政策課題などの情報及び意見の交換を通じて議員の研鑽を図り、もって各議会の活性化と活力に満ちた地域づくりに寄与するため行われた。



### 2020 2月 県議会本会議

第301回定例会（2月25日開会・3月24日閉会予定）

ちかし POINT

## 東京オリンピック・パラリンピックの開催効果獲得について

問

いよいよ来年七月二十四日から八月九日までの十七日間にわたる開催が迫ってきました東京オリンピックですが、日本におきましては、一九六四年（昭和三十九年）以来五十六年ぶりです。その際に、四人の本県出身者が出場しており、大いに盛り上がったものと思われまふし、今大会においても、一人でも多くの本県出身者が出場、活躍されることを期待しております。さらには、オリンピックの開催により、多くの国から、選手はもちろんのこと、多くの観光客の皆様が日本を訪れることになり、多大な開催効果があるものと推察いたします。経済効果の多くは首都圏や開催地に偏るとは思われますが、本県もしっかりと世界に向けて、青森県の特徴やよさをPRしていくべきと考えます。また、農林水産省などは、GAP認証を取得した国内の食材を選手村で提供し、日本の食文化の安心・安全をアピールするとしてのことから、本県の多くの食材も、この機会を捉え、世界にアピールするチャンスであると思われまふ。

いるノウハウやネットワークを生かしながら、東京オリンピック・パラリンピックの開催効果を最大限に獲得できるように、全庁を挙げて取り組みを推進していきたいと考えております。

東京オリンピック・パラリンピックを見据えて、県は県産品の販売促進にどのように取り組んでいるのかお伺いいたします。

答 農林水産部長

国内外からの来訪者による飲食や商品購入の増加が見込まれることから、県産品の販売拡大を図る好機と捉えています。飲食機会の増加が見込まれる首都圏への県産品の販売拡大に向けて、中食・外食事業者二十四社を対象に、県産食材のPRと利用希望等の聞き取りを行った結果、リンゴやホタテの加工品などへのニーズが得られたことから、サンプル提供や産地招請等により県内の食品加工業者とのマッチングを支援しているところです。

問

東京オリンピック・パラリンピックを契機としたGAPの取得拡大をどのように進めていくのかお伺いいたします。

答 副知事

国の交付金を活用して、県や農協の

ちかし POINT

## 「青天の霹靂」の販売対策について

問

「青天の霹靂」は平成二十七年に市場デビューを果たしてから、今年で五年目を迎えます。「青天の霹靂」の名前は、全国的にも広く知られるようになり、青森県産米全体の評価を高める牽引役として大きく成長したのと思われまふ。特A米が多数存在する厳しい市場の中にあってもブランド米として消費者に選ばれていくためには、高品質の米を生産するとともに、食味のよさをしっかりとPRすることが必要であると思われまふ。これまでの四年間の実績を踏まえ、五年目だからこそできる消費宣伝活動を展開していく必要があると考えまふ。

令和元年産「青天の霹靂」の生育経過と作柄の見込みについてお伺いいたします。

答 農林水産部長

田植え後、例年比べて高温、多照で経過したことから、分けつが旺盛となり、出穂期が平年より二日程早まりました。また、八月中旬まで記録的な少雨が続き、生育の影響が心配されましたが、生産指導プロジェクトによる指導や、生産者の適切な水管理により、十分な穂数が確保され、さらに出穂後も高温で経過し、登熟が良好に進んだことなどから、総じて生育は順調に推移したところです。収穫を終えた生産者や農協からの情報等も勘案すれば、作柄は昨年と比べて良好と見ています。

デビュー五年目を迎える「青天の霹靂」の消費宣伝に、県はどのように取り組んでいくのかお伺いいたします。

答 知事

十月五日からの約一カ月間は、県内において、オリエントデザインのパッケージで販売するほか、「青天の霹靂」のさびりとしたおいしさや、おかずと相性がよいといった特徴を消費者に体験していただく、一万人さつぱり体験PRキャラバンを全国で実施するなど、五年目の節目にふさわしい消費宣伝を展開いたします。

ちかし POINT

## 青森りんごのタイへの輸出対策について

問

りんご輸出先として、今後、拡大が期待されますタイへのりんご輸出にかかわる選別・梱包施設を対象にした新たな食品衛生規則が八月二十五日より運用されるとの報道がありました。実質的には本年産りんご輸出から対象となり、対策が必要不可欠であります。多くの輸出業者の皆様はJFS規格の取得を検討もしくは取得済みであるかと思われまふが、その取得については、多額の費用負担を生じること、毎年監査が必要であり、監査費用負担も発生し、輸出業者の負担増が懸念されておりましたが、農水省では都道府県の発行する証明書でも輸出可能との見解を示しました。本県にとりまして、りんご輸出は非常に重要であり、全国一位の生産量を誇ることから、他県に先駆けて証明書の発行をすべきであると考えまふ。

タイ向けりんごの輸出状況についてお伺いいたします。

答 観光国際戦略局長

近年、タイ向けのりんごの輸出量は増加しており、平成三十年産の輸出量は前年産比一五〇％の千四十一トンで過去最高を記録しました。この要因としては、青森県農林水産物輸出促進協議会が、現地の高級スーパーに物販促進宣伝や、輸入業者の産地招請などに継続して取り組んできたことにより、富裕層の認知度が高まっていること、さらに、民間事業者と産地が連携して、現地でニーズが高い中・小玉りんごを計画的に輸出し、中間層の購買を伸ばしていることが挙げられます。県では、本年三月に策定しました青森県輸出・海外ビジネス戦略において、タイを積極的・継続的に輸出すべき重点国と位置づけ、輸出拡大を目指すこととしております。

タイ政府による選果・梱包施設に対する規制について、県ではどのように対応しているのかお伺いいたします。

答 農林水産部長

りんごをタイに輸出する場合、これまでは台湾などと同様に園地登録等の検疫条件を満たせば可能でしたが、本年八月二十五日以降は、選果・梱包する施設ごとに、同国が定めた衛生管理基準が、国際機関が承認するISOなどの規格に適合していることの証明書の提出が新たに必要になった旨の通知がありました。その後、対応策等について国に確認していったところ、一般財団法人食品安全マネジメント協会による、タイの基準を満たす専用規格いわゆるJFS規格の取得などが示されたところです。県ではタイへの輸出が継続的に行われるよう、タイ向けりんごの選果・梱包施設を登録している四十一事業者を対象に、JFS規格の取得に向けた説明会や研修会を開催し、二十一事業者がこの規格を取得しています。県が発行する証明書については、他県から得た情報や、国から七月下旬に示された審査マニュアル案などを参考に、十一月末までに交付できるように、具体的な審査手続き等の準備を進めているところです。

タイ向けを含め、りんご輸出が順調に推移しているかお伺いいたしますが、平成三十年産りんごの全体の販売額も終わりましたが、十分期待できると思われまふ。そこで、年間販売額について、どのようにであったのかお伺いいたします。

答 農林水産部長

平成三十年産りんご販売額につきまして、販売額は約一千八億円となり、平成二十九年産と比較して約六億円上回るとともに、五年連続で二億円の大幅な増加となりました。その内訳は、輸出を含む県外販売が約九百二十六億円で、平成二十九年産と比較して約七億円上回った一方で、県内販売が約四十三億円、加工仕向けが約三十九億円となり、それぞれ約三億円、約十億円上回ったということです。

ちかし POINT

## 安心・安全で持続可能な水道に向けた県ビジョンの策定について

問

水は命の源であり、私たちの生活に欠かせないものであります。全国的に見ると水道の普及率は九七・九％となっており、水質の良さと合わせて、世界一位ではないでしょうか。しかしながら、一方で多くの問題を抱えており、高度経済成長期に整備された施設が老朽化し、年間二万件を超える漏水・破損事故が発生しており、全ての管路更新には百三十年以上かかるとの想定もあります。また、耐震化のおくれによる災害時の断水の長期化や、水道事業者が小規模であることによる経営基盤の脆弱さ、経営状態の悪化などが指摘されており、その改善とともに、将来にわたっての安全な水の安定供給が求められます。以上のことを踏まえ、本県においても現状を踏まえた将来の県内水道事業のあり方を示す必要があると思われまふ。

安心・安全な水道が維持されていくことが重要と考えまふが、青森県水道ビジョンを策定するに当たっての県の基本的な考え方についてお伺いいたします。

答 知事

策定に当たりましては、本県における新たな人口推計に基づき、水道水の需要と供給の見通しを立てるとともに、本県の水道の現状分析や、水道が抱える課題を克服するための方策を検討し、五十年、百年先を見据えた本県水道のあるべき方向性を、市町村等に示すことといたしております。

ちかし POINT

## 「青天の霹靂」の販売対策について

問

「青天の霹靂」は平成二十七年に市場デビューを果たしてから、今年で五年目を迎えます。「青天の霹靂」の名前は、全国的にも広く知られるようになり、青森県産米全体の評価を高める牽引役として大きく成長したのと思われまふ。特A米が多数存在する厳しい市場の中にあってもブランド米として消費者に選ばれていくためには、高品質の米を生産するとともに、食味のよさをしっかりとPRすることが必要であると思われまふ。これまでの四年間の実績を踏まえ、五年目だからこそできる消費宣伝活動を展開していく必要があると考えまふ。

令和元年産「青天の霹靂」の生育経過と作柄の見込みについてお伺いいたします。

答 農林水産部長

田植え後、例年比べて高温、多照で経過したことから、分けつが旺盛となり、出穂期が平年より二日程早まりました。また、八月中旬まで記録的な少雨が続き、生育の影響が心配されましたが、生産指導プロジェクトによる指導や、生産者の適切な水管理により、十分な穂数が確保され、さらに出穂後も高温で経過し、登熟が良好に進んだことなどから、総じて生育は順調に推移したところです。収穫を終えた生産者や農協からの情報等も勘案すれば、作柄は昨年と比べて良好と見ています。

デビュー五年目を迎える「青天の霹靂」の消費宣伝に、県はどのように取り組んでいくのかお伺いいたします。

答 知事

十月五日からの約一カ月間は、県内において、オリエントデザインのパッケージで販売するほか、「青天の霹靂」のさびりとしたおいしさや、おかずと相性がよいといった特徴を消費者に体験していただく、一万人さつぱり体験PRキャラバンを全国で実施するなど、五年目の節目にふさわしい消費宣伝を展開いたします。

問

全国的に水道管の老朽化の進行や耐震化のおくれが問題となっておりまふが、本県の状況についてお伺いいたします。

答 健康福祉部長

県内の水道供給事業において、法定耐用年数四十年を超える、老朽管の割合は、平成二十八年現在で、六三・三％となっており、全国の一・五ポイント上回っております。また、主要な管路である導水管、送水管及び配水管における耐震適合性を有する管の割合は、平成二十九年末現在で四三・六％となっており、全国の四・三ポイント上回っております。

水道管の老朽化の進行や耐震化のおくれに対し、県はどのように取り組んでいくのかお伺いいたします。

答 健康福祉部長

昨年十二月の水道法改正により、適切な資産管理の推進を図ることとされ、そのために必要な水道施設台帳を令和四年九月末までに整備しなければならぬこととされました。台帳整備の状況を定期的に把握し、必要に応じて、水道事業者に対して適切な助言、指導を行っていくこととしております。また、水道管の計画的な更新や耐震化については、当該交付金等の積極的な活用についても助言していくこととしております。